

支えあって 子育て



赤ちゃんが生まれたら、まず寝る場所を決めなくてはならない。最近住宅の洋室化が進み、ベビーベッドを使う家庭も増えている。種類によって使い方が異なるので、置き場所などを考慮して選ぶ。使う期間が短いため、レンタルを利用するのも一つの方法だ。

賢いベビーベッド選び

千葉市の主婦34は生後半年の長男が生まれた時から、ベビーベッドを使っている。キャスター付きで、昼寝の際などは目の届くリビングルームに置き、夜は寝室に移動している。

「マンション住まいで、フローリングの床のほこりが気になることもあり、ベビーベッドを選んだ。夫は『布団だと、間違っても踏んでしまわないか心配だった』とも言っていました」

ミキハウス子育て総研の調査(2002年)によると、出産準備でベビーベッドを用



レンタルも一つの手

意した人は約8割。かつては和室に布団を敷いて寝かせる家庭が多かったが、住宅の洋風化などの影響で、ベビーベッドが増えているようだ。ベビーベッドには「立ちベツド」と「サークル兼用タイプ」の2種類がある。「立ちベツド」は、床板部分が高いため、立ったままでも赤ちゃんの世話がしやすい。2歳くらいまで使える。「サークル兼用」は全体の高さが低く、床板を外すと、柵の中で子どもを遊ばせるベビーサークルとしても使える。子どもがつかまり立ちを始めたら、柵から落

ちないよう、床板を外す必要がある。価格は、材質やデザインなどにより、1万円台から数万円。ただ、使用する期間が短いこともあり、レンタルを利用する人も多い。ミキハウス子育て総研の調査でも、「買った」と「レンタルした」はほぼ同数。レンタル料金は半年間で5千〜1万円程度という例が多いようだ。育児用品レンタルの愛育ベ

部屋の広さ
使う期間
安全マーク

かを想定し、実際に高さや幅などを測った上で選んでほしい」と助言する。最近では移動に便利なキャスター付きが人気だ。低めの「サークル兼用」の方が、部屋に置いても圧迫感が少ないという。柵の扉は、スライド式と手前に開くタイプがあり、後者は開ける際のスペースが必要となる。国の基準を満たしていることを示す「PSマーク」や製品安全協会の「SGマーク」が付いている品を必ず選ぶ。

ベビーベッドは、部屋の広さや使う期間などによって、賢く選びたい

開いた柵の扉から子どもが転落したり、扉を閉める際に指を挟んだりする危険もある。保護者がベビーベッドから離れる際、扉は必ず閉める。また、扉の操作には十分注意し子どもには扱わせない。床板の高さが調節できるものは、子どもがつかま

転落指詰め ご注意

り立ちを始めたら、床板を下げる。製品安全協会の基準では、床板から柵の上部まで60センチ以上になるよう求めている。布団の下に厚手のマットなどを敷いている場合、柵の高さを確保するため、マットを外すなどの注意も必要になる。



ほん

くらし家庭

◇「子育て・納得のアドバイス」(L・N・タラン、V・P・ペトルニク著、広瀬信雄監訳、新読書社、1600円税別)

1978年に旧ソ連で書かれた育児書に、山梨大教授の監訳者がわかりやすく手を加えた。今の時代を先取りするような内容で、ゼロ歳から思春期にかけての子育てについてアドバイスする。「赤ちゃんの動きたいという欲求はおさえない。おもちゃに手を伸ばして届かなくても、すぐ取ってやらないことが発達を促す」「言葉の発達やトイレトレーニングは、あせらずに見守り、しかったり、せかしたりしない」など、発達段階に合わせた解説。育児には大人が気を配るべきこと、おおらかに構えるべきことがある」と強調する。